

○ 正答例

一 (1)

中の雪
さみしかるな。
ア 周りの色がおんなじで。

【例 2】

中の雪
さみしかるな。
ア 風の音さえ聞けないで。

(2)

一連と二連は、二行目に雪を心配する言葉が、三行目に心配する理由が書かれている。三連も雪を心配する理由を書く必要がある。中の雪は、見える色だから、周りの色がおんなじで、としてみた。(百十一字)

○ この問題で身につけてほしい力

すぐれた表現を読み味わい、自分の考えをまとめる力

○ 考え方

一 (1) 一連と二連は、次のような組み立てになっています。

<p>○雪の位置 上の雪 ○雪を心配する言葉 さみしかるな。 ○心配する理由 つめたい月がさしてゐて。</p>	<p>○雪の位置 下の雪 ○雪を心配する言葉 重かるな。 ○心配する理由 何百人ものせてゐて。</p>
---	---

ア ですから、三連も同じ組み立てでまとめていきます。中には、中の雪を心配する理由を書きます。

(2)

自分の考えを相手に伝わるように説明することは、とても大切な力です。これは国語だけの話ではありません。他の教科でもそうですし、友だちと話をする場合でも同じです。

この問題では、次のような組み立てで答えるとよいでしょう。

- ・ 詩の組み立てを説明する。(根拠①)
- ・ 「中の雪」のさみしさを説明する。(根拠②)
- ・ 結論を書く。

○ 詩の組み立てを説明する。

一連と二連は、二行目に雪を心配する言葉が、三行目に心配する理由が書かれている。三連も雪を心配する理由を書く必要がある。中の雪は、見える色が

○ 「中の雪」のさみしさを説明する。

白一色だ。これでは、何も分からなくてさみしい。

○ 結論を書く

だから、周りの色がおんなじで、とした。

ちなみに、金子みすずさんは、三連を次のように書いています。

中の雪
さみしかるな。
空も地面も見えないで。

生命のないもの(雪)を、あたかも生きていくかのように表現していますね。(擬人法「へぎじんほう」といいます) また、一連、二連とのつながりから、「空も地面も」見えないという表現が選ばれていることにも気づくでしょう。

こうした素晴らしい作品を、金子みすずさんはたくさん残しています。金子みすずさんが書いた他の作品を手にとって読んでみることも、きっとすばらしい学習になるはずです。